

第1回学校運営協議会 議事録

- 1 日 時 令和7年5月19日（月） 午前9時30分から11時30分まで
- 2 会 場 袋井特別支援学校 会議室
- 3 参加者 竹野 昇 （会長）
早川 俊之 （副会長）
鈴木 雅宏 （地域コーディネーター）
山本 洋子 （委員）
川端奈津子 （委員）
柴田 七重 （委員）
石黒 加奈 （委員）：欠席
- 学校（校長、副校長、教頭、事務長、小学部主事、中学部主事、高等部主事、肢体教育主任、教務課長：欠席、支援連携課長、コミュニティスクール・コーディネーター：欠席）

4 内 容

(1) 校長あいさつ

- ・4月からの学校（児童生徒、教職員）の様子について
- ・運動会、産業現場等の実習について
- ・昨年度までの学校運営協議会の様子について

(2) 自己紹介

(3) 会長あいさつ

- ・自身の経歴について
- ・自然な交流をすることの重要性や卒業生が社会で活躍できるようにするための地域の役割について

(4) 学校経営計画、学部経営計画について

- ・グランドデザイン、各経営計画をもとに説明。その後承認。

委員：訪問教育の押し花教室の様子はどうだったか。

学校：学校だけでなく、登校できなかった児童生徒はZoomでつないで行った。押し花は教員や保護者も準備し、講師の先生も彩りある花を準備して下さり、ていねいに説明して下さった。その日だけでなく、続けて学習でき、作品は校内

にも掲示した。今年度はまだ計画できていない。

委員：ヒヤリハットはどういったものか教えてほしい。

学校：病院に行かないまでも、保健室で処置したことや危険だと感じたことを部主事中心に判断し、繰り返さないためにも原因や今後の対応を含めて共有している。

委員：きぼう館に来る途中での、交通安全上の危険箇所等のチェックシートはあるか。あれば、我々が危険な場所の情報を共有し、安全上の配慮や市への要望等ができる。

学校：肢体不自由の視点では、車椅子を押すためには段差が多い（日本全国多いが）ので、近隣であってもバスを使うこともある。小学部は、校外のチェックシートはないが、教員が下調べをして危険箇所を避けるようにしている。低学年は必然的に河原沿いを歩くことが多い。高学年は、交通安全教室の経験を経て、公道を通ることが多い。心配なことがあれば相談させていただきたい。

委員：段差は自治会で市に要望できる。

委員：小・中・高等部があるので、教育的配慮もなされているのか。

学校：安全が最優先だが、そういった面も考えられる。

委員：不審者学校侵入のニュースがあったが、学校の対策はどうなっているか。全てに鍵があるわけではないので不安はある。

学校：環境面では、門を施錠しシートベルトで二重ロック、昇降口や通路も閉めている。開かれた学校も増えてきている中、安全には配慮している。不審者対応訓練も行っている。ニュースでは複数人の不審者だったため、今後は複数人を想定した訓練も必要になってくる。

委員：さすまたや防犯カメラについてはどうか。

学校：さすまたはある。防犯カメラは4台ある。

委員：防犯カメラは高額だが、看板があることで抑止力にもなる。

学校：開かれた学校と安全面の両方を考えると難しいこともある。今までは池田小をモデルに対応してきたが、今回は准保護者的存在。校内に入れにくいことも難しいので対応を考えさせられる。看板も考えたい。

学校経営計画等の承認

- (5) 地域や社会とつながり合う授業や教育活動の実践について
・昨年度の様子、今年度の計画について説明

委員：地域は自治会も含めて協力してくれていることがよく分かった。子どもたちがそれぞれの家に帰った時に自分の地域ではどうかと考える。自分でも通った子に行き帰りに挨拶をするようになってきた。支援学校の子だけでなく、自然に声を掛けると気になるようになるので、もっといろいろな地域の人が自分の地域の子も達に声を掛けるようになるとそれぞれの場所で受け入れられるようになるのではないかと。

委員：自治会関係は自治会だよりも発行しているので、イベント等の宣伝協力ができる。交流校の児童生徒も表面だけの交流とならないように、学びの場としての理解を深めることができるようにしていくことについても、協力できることはある。

委員：地域の方が、民間などの方が地域の先生として関わる機会があるか。

学校：小学部は以前、相撲が詳しい方、野菜名人に来てもらった。中学部は、花の会の方、作業学習、生活単元学習で野菜の育て方などその年もテーマによって来てもらっている。高等部は、それぞれの作業班でプロの職人に来てもらっている。ブルーレブズの方に来てもらった。以前は袋井市の太鼓について、来てもらったこともある。肢体教育では、押し花教室に来てもらった。

委員：地域の方が教えるだけでなく、一緒に何かをやる機会があっても良い。地域の住民で花づくりや菜園、工芸作品などが得意な人がいる。必要な人材をボランティアとして活用できるので、相談してほしい。地域の人にも活躍する機会を与えてほしい。

委員：自分の居住地に戻ってからの人生が長い。受け皿としての地域や小さなコミュニティで、受け入れる仕組みが必要だと感じる。

学校：自分の居住地の学校に行く居住地校交流も行っている。

委員：イオン袋井店はP T Aバザーへの協力やイエローレシートキャンペーンを行っている。会議室等のスペースも貸し出しができ、宣伝等に使えるとのことなので、必要あれば相談する。

委員：児童の安全のために、袋井駅からの歩道が狭いので広くすることや、道幅の改善を自治会、P T A、学校運営協議会からの要望として伝えられる。また、通訳の不足、避難所や児童生徒の教育活動を考えた体育館の冷暖房の設置を依頼したいと考えている。

(6) 新校について

- ・新校だよりをもとに説明

(7) 学校見学

